

語り継ぎたい豊平の歴史 ～第9回～

いまむかし アンパン道路の今・昔

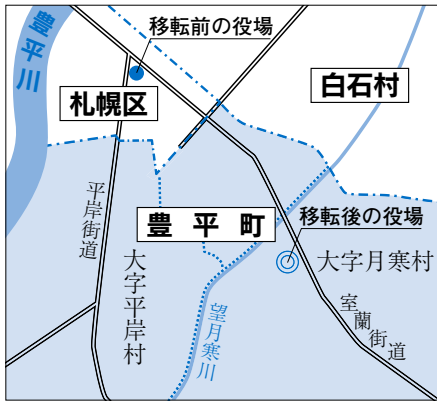


アンパン道路の工事の様子 (1911 (明治44) 年)

明治の末、豊平町役場の移転に伴い造られた、通称「アンパン道路」。

平岸と月寒を結ぶこの道路の完成から、今年でちょうど100年になります。

今回は、このアンパン道路の歴史を振り返ります。



〈図〉豊平町の主な道路 (明治43年)

役場の移転と分村運動

一九一〇(明治四十三年)四月一日、豊平町大字豊平村の一部(現在の豊平地区)が分村し、当時の札幌区に編入されました。

このときの町役場は、札幌区に編入した場所(現在の豊平三条五丁目)にありましたが、この場所が交通の要衝で大変便利だったことから、町会は、「編入後も役場は移転しない」と決議しました。

しかし、北海道庁から通告があり、やむなく大字月寒村(現在の月寒西一条六丁目)に移転することとなりました。

この決定で困ったのが、大字平岸村の人々です。このころは、平岸村から月寒村に直接通じる道がなく、移転した役場に行くには、札幌区を経由するなど大きく迂回しなければならず、とても不便になるためです。

当時の平岸村は、現在の平岸から定山溪までを含むとても広い地域で、戸数も六百戸に達する規模に成長していたことから、一部で豊平町からの分村運動が起こるほどの事態となりました。

道路の開削に立ちはだかる難問

そこで豊平町はこの運動を鎮静化させるため、平岸と月寒を結ぶ道路「平岸連絡線」の開削を決定します。

こうして造られることとなった新しい道ですが、その開削は容易なものではありませんでした。

当初は比較的工事が簡単な経路を予定していましたが、月寒にあつた射撃場を横切るとも危険なものであつたことから、計画の変更を余儀なくされました。

道路に必要な土地は住民からの寄付もあつて準備はできましたが、結果として丘陵地を切り開き、水田の埋め立てなど必要な難工事となり、町の予算ではとても完成の見込みが立たない状況に追い込まれました。

感謝を込めたあんばんんの配給

この状況に苦慮した吉原兵次郎町長は、当時月寒に駐屯していた陸軍第七師団歩兵第二十五連隊の稲村新六連隊長に相談。事情を説

明し、演習の名目で兵力の出動を懇願すると、稲村連隊長は快く協力を約束してくれました。

こうして、翌一九一一年(明治四十四)年六月に、歩兵第二十五連隊の応援を受け工事を開始。住民も馬車や労力を提供し、軍民一致の努力で作業は順調に進められ、約五カ月後の同年十月二十九日に道路は完成しました。

工事の期間中、町は感謝の気持ちを込めて、協力してくれた兵員に、毎日あんばんん五個をおやつとして配給し労をねぎらいました。そのことから、完成した道路は、「アンパン道路」と呼ばれるようになりました。

月寒あんばんん いま・むかし

町が配給したあんばんんは、軍の御用商人、大沼甚三郎が試行錯誤して考案したものです。

薄皮でこしあんがぎっしり詰まった大きな月餅風の焼きまんじゅうで、兵員たちに大人気となり、次第に「月寒あんばんん」と呼ばれるようになりました。

連隊正門付近には、7店ものあんばんん屋が軒を並べ、味を競い合っていたとされています。

戦中・戦後の混乱の中、一時は全ての店が姿を消してしまいましたが、昭和22年、本間与三郎だけが製造を再開。株式会社「ほんま」として、今も伝統の味を守り続けています。